

4. 妊娠胎児の性別判定試験について

妊娠判定には、Ascheim-Zondek反応，同改良変法及びFriedman反応，その他種々方法が用いられているが，当所臨床検査科においてはFriedman（妊娠診断排卵試験法）を採用し，90%以上の確率を得ている．昭和34年11月第8回東海薬学大会において，愛知県薬剤師協会開局部小田，佐野両氏の発表によると，Richerd妊娠判定法，及び同法に依る胎児性別判定法は，日常臨床検査室において，極めて簡単な化学的操作に依り，判定出来る方法であることを示されたので，昭和35年8月より同法の追試を行つたところ，その成績は次の通りであつた．

試験方法

検査材料（妊娠判定には妊娠1～2ヶ月妊婦の朝の新鮮尿性別判定には妊娠6ヶ月以後妊婦の朝の唾液）検

体2ccに，2% NaOH 2～3滴混和し，之にクロロホルム5ccをへて強く振盪後静置すると，クロロホルム層は分離する．この分離上層部をピペットで他の試験管に採り，2.5% H₂SO₄ 4～5滴を混和，之に2.4% Dinitro Phenyl hyrazine (C₆H₆N₄O₄) 70%アルコール飽和溶液（用時調製）5～6滴混和，15分間室温に放置後2% NaOH 2 ccを加へる．

判定

濃赤褐色～赤褐色 妊娠又は男児
 橙色～薄黄茶色 陰性（妊娠していない）又は女児

試験成績

検体は県庁内衛生管理室の係の方の協力を得て送付を受けた．

検査月日	検体番号	妊娠経過月数	反応	判定	出産事実
8,10	No. 1	8ヶ月	濃赤褐色	♂	♂
9. 4	No. 2	6ヶ月	〃	♂	♂
〃	No. 3	7ヶ月	薄黄茶色	♀	♂
9.17	No. 4	5ヶ月	濃赤褐色	♂	♂
〃	No. 5	8ヶ月	〃	♂	♀
9,24	No. 6	7ヶ月	薄紫色	♀	♀
〃	No. 7	6ヶ月	濃赤褐色	♂	♂
〃	No. 8	7ヶ月	〃	♂	♂
〃	No. 9	7ヶ月	〃	♂	♂
〃	No.10	9ヶ月	薄黄茶色	♀	♂
〃	No.11	7ヶ月	濃赤褐色	♂	♂
〃	No.12	9ヶ月	〃	♂	♂
〃	No.13	7ヶ月	〃	♂	♂
〃	No.14	8ヶ月	薄黄茶色	♀	♀
〃	No.15	6ヶ月	〃	♀	♂

以上妊娠経過月数6ヶ月以上の妊婦の，朝の新鮮唾液を検体としての，胎児性別判定成績は少数例に過ぎず，即ち検体数15例中，反応薄黄茶色判定女児とした3件が出産事実と異つたのみで，他の13例は判定通り，其の確率80%を示したが，之を以つて本法の価値を批判することは早計であり，今後尚試験を継続し，多数例について

正確度が実証せられ，更に本反応の化学的機序についての解明が加へられるならば，妊娠胎児性別判定法のルーチンワークとして，極めて興味深いものと考えらる．

尿についての早期妊娠診断法は，今迄行つた成績ではFriedman其の他の方法より，其の確率著しく劣り，更に検討の要がある．